

事例1 国家が繁栄した理由について考察させる授業

1 ねらい

世界史では多くの国が学習の対象となるが、繁栄した国家には、それぞれ独自性があると同時に、何らかの共通性や普遍性がある。この事例では、国家が繁栄した理由を考えさせることにより、歴史的事象を多面的・多角的に考察する力や、時代の特徴を的確に把握する力を身に付けさせたいと考えた。また、様々な視点で他国と比較することにより、歴史的事象の理解をより深めることもできると考えた。さらに、視野を広げ、国家や社会の在り方について考えるきっかけにもなればよいと考えた。

この事例では、題材として「オスマン帝国の成立と発展」と「オランダの独立と繁栄」を取り上げ、これまでの学習で得てきた知識をもとに、両国が繁栄した理由を考察させ、自由に仮説を立てさせた。さらに、班別に仮説をまとめ、発表する活動や、他の班への反論、仮説の検証といった活動を通して、考察を深めさせた。なお、授業実践は第2学年を対象に行った。

2 指導計画・評価計画と授業実践

実践1

(1) 単元名 オスマン帝国の成立と発展

(2) 単元の目標

- ①オスマン帝国が繁栄した理由について、多面的・多角的に考察させる。
- ②オスマン帝国の成立と発展の過程について理解させる。

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
オスマン帝国の繁栄理由について、意欲的に仮説を立てようとしている。	オスマン帝国の繁栄理由について多角的・多面的に考察している。	適切な資料を活用して、オスマン帝国が繁栄した理由についての仮説を検証し、自分の考えを表現している。	オスマン帝国の成立と発展について理解し、基本的な知識を身に付けている。

(4) 単元の指導計画

- 1 時間目 オスマン帝国の繁栄の理由について各自が仮説を立て、班ごとにまとめる。
- 2 時間目 各班の仮説を各自が評価した後、班ごとに仮説を割り当てて検証する。
- 3 時間目 班ごとに検証結果を発表し、史実を確認した後、各自でオスマン帝国繁栄の理由をまとめる。

(5)授業展開

《1時間目》

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価計画 〔評価方法〕
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・「トルコ行進曲」「イエニチェリ軍楽隊の行進曲」を聴く。 ・18世紀末のヨーロッパ人はトルコ人に対してどんなイメージを抱いていたかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なイメージが生み出されたのはなぜかを考えさせる。 	
展開	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・オスマン帝国の成立と発展過程についてワークシート1を見ながら講義を聞く。 ・地形・国境の入った現在の地図と最大版図の地図を見て、オスマン帝国の大きさを確認する。また、帝国には多くの民族が含まれていたことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の地図と最大版図の地図で、オスマン帝国の大きさを確認させる。また、オスマン帝国が多民族国家であったことに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オスマン帝国の成立と発展について基本的な知識を身に付けている。 【知識・理解】 〔観察、テスト〕
	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・オスマン帝国が広大な領土を維持しつつ、長く繁栄したのはなぜか、自分なりに仮説を立ててワークシート2に記入する。また、その仮説を立てた理由や根拠もあわせて記入する。 ・班ごとに話し合っ、班としての仮説を絞り、ワークシート3に「仮説」と「仮説を立てた理由、根拠」をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ多くの仮説を立てさせ、ワークシート2に記入させる。その際、今まで学習した帝国や王国などで学んだ支配の仕組みを参考にさせる。ただし、オスマン帝国については教科書や資料集の該当箇所は見ないように指示する。 ・座席順で班を作らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項をもとに説得力のある仮説を立てている。 【関心・意欲・態度】 【思考・判断】 〔ワークシート2〕

ワークシート1

年 表

- 1299年 小アジア西北部にオスマン帝国建設 族長：オスマン＝ベイ（オスマン1世）
 1326年 オルハン、ブルサを都とする。
 1366年 ムラト1世、バルカン半島に進出し、アドリアノーブル（現在のエディルネ）に遷都
 1396年 バヤジット1世、バルカン諸国と仏独の連合軍を撃破（ニコポリスの戦い）

~~~~~ (中 略) ~~~~~

- 1538年 スレイマン1世、スペイン・ヴェネツィアの連合艦隊を破る。（プレヴェザの海戦）  
 1571年 セリム2世、スペインに敗北（レパントの海戦）  
 地図 **オスマン帝国の最大領域（16世紀）**（省略） 地図 **現代の地中海世界**（省略）

## ワークシート2

2年（ ）組（ ）班 氏名（ ）

オスマン帝国(1299年～1922年) が長く繁栄し、広大な領土を維持できたのはなぜか？  
 その理由を考えて、自分なりの仮説を立ててみよう。

その際、今まで学習した各地域のいろいろな時代の王国・帝国・王朝などを参考に考えてみよう。また、政治的要因、社会経済的要因、宗教的要因、文化的要因、地理的要因など様々な角度から考えてみよう。

|   | 仮 説           | 左記の仮説を立てた理由または根拠                                       | 評価 |
|---|---------------|--------------------------------------------------------|----|
| 例 | 有能な指導者が多く現れた。 | ローマ帝国の五賢帝時代や清王朝の康熙帝、雍正帝、乾隆帝のように有能な指導者が続いた国は長く繁栄しているから。 |    |
| 1 |               |                                                        |    |
| 2 |               |                                                        |    |
| 3 |               |                                                        |    |

### ワークシート3

2年( )組( )班 氏名( . . . . . )

オスマン帝国(1299年～1922年)が長く繁栄し、広大な領土を維持できたのはなぜか？

その理由を考えて、班ごとに仮説をまとめよう。

その際、今まで学習した各地域のいろいろな時代の王国・帝国・王朝などを参考に考えてみよう。また、政治的要因、社会経済的要因、宗教的要因、文化的要因、地理的要因など様々な角度から考えてみよう。

|   | 仮説 | 左記の仮説を立てた理由または根拠 | 評価 |
|---|----|------------------|----|
| 1 |    |                  |    |
| 2 |    |                  |    |
| 3 |    |                  |    |

### 〈2時間目〉

| 段階 | 時間  | 学習内容・学習活動                                                                    | 指導上の留意点                                                                                           | 評価計画<br>〔評価方法〕                                   |
|----|-----|------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 展開 | 10分 | ・ <b>ワークシート4</b> の仮説を見て、各仮説を自分なりにA～Cで評価する。                                   | ・ 前時の班ごとの仮説を分類し、 <b>ワークシート4</b> にまとめて配付する。<br>・ 評価のポイントをよく説明する。                                   |                                                  |
|    | 15分 | ・ 各仮説を支持するかどうかを各自考える。支持しない場合や、支持しない部分がある場合は、その理由を <b>ワークシート4</b> に記入する。      | ・ 仮説に反論や異論があるか、各自で考えておくことで、次の検証作業がしやすくなる。                                                         |                                                  |
|    | 25分 | ・ 班ごとに、割り当てられた仮説が史実に合っているかどうかを、資料集や配付された参考文献などをもとに検証し、 <b>ワークシート4</b> に記入する。 | ・ 班ごとに調べる仮説を割り当てる。<br>・ 参考文献を配付し、班内で読む資料を分担するなど効率よく検証作業を進めるよう指導する。また各自が考えた仮説への反論もお互いに参考にするよう指示する。 | ・ 資料を活用して適切に検証している。<br>【資料活用の技能・表現】<br>〔ワークシート4〕 |

## ワークシート4

※実際のシートはB 4 横長

| 仮説 | 左記の仮説を立てた理由または根拠                                                                | 評価 | あなたはこの仮説を支持しますか？（○△×で記入）<br>支持しない場合、その理由 | 史実に合っているか？<br>違う場合、実際はどうか？ |
|----|---------------------------------------------------------------------------------|----|------------------------------------------|----------------------------|
| 1  | ・近隣国と友好関係を結んでいた。<br>・対立すれば戦争が起き、そのためにいろいろな費用を使わなければならないため。<br>・清とロシア、…<br>(以下略) | ↑  |                                          |                            |
| 2  | ・危機管理能力が…<br>(以下略)                                                              |    |                                          |                            |

仮説としての評価基準（A～Cで記入）

A：過去に学んだ知識に基づいており、説得力がある。

B：過去に学んだ知識に基づいているが、説得力にやや欠ける。

C：過去に学んだ知識に基づいていない。内容に誤りがある。

(ここで省略した生徒の仮説は、7ページに示した。)

### 〈3時間目〉

| 段階  | 時間  | 学習内容・学習活動                                                                                          | 指導上の留意点                                 | 評価計画<br>〔評価方法〕                                                   |
|-----|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 展開  | 40分 | ・班ごとに、検証した仮説が正しかったかどうか、また史実はどうであったかについて、班の代表が発表する。<br>・発表や教師の説明を聴き、 <b>ワークシート4</b> に史実やポイントを書き加える。 | ・発表内容に補足・訂正を加えていく。<br>・ポイントをしっかりと記入させる。 | ・内容が適切で、分かりやすく発表している。<br>【資料活用の技能・表現】<br>【知識・理解】<br>〔発表、ワークシート4〕 |
| まとめ | 10分 | ・オスマン帝国の繁栄の理由について5行以上でまとめる。                                                                        |                                         | ・正しい知識が身に付いている。<br>【知識・理解】<br>〔まとめの記述内容〕                         |

(6) 実践の概要

今回の実践では、生徒が立てた仮説を、以下のように教師が事前におおまかに分類し、**ワークシート4**として配付した。生徒の立てた仮説とその理由・根拠を次に挙げる。

| NO | 仮 説                                | 左記の仮説を立てた理由または根拠                                                                                                                        |
|----|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | ・近隣国と友好関係を結んでいた。                   | ・対立すれば戦争が起き、そのためにいろいろな費用を使わなければならないため。<br>・清とロシア、明と李氏朝鮮のように、近隣国との関係をよくしていた国は長く続いているから。                                                  |
| 2  | ・危機管理能力が高かった。                      | ・アケメネス朝に見られる「王の目・王の耳」のように、いち早く反乱などについて知ることができたから。                                                                                       |
| 3  | ・税制がよくできていた。<br><br>・あまり重税を課さなかった。 | ・清王朝が行った地丁銀制のように、国民が反乱を起こさないように税の負担を少なくしたから。<br>・ローマ帝国も明も清も良い税制で繁栄したため。<br>・農民などを苦しめるような税制があると、農民が困窮してしまい、国家の基礎が崩れるから。                  |
| 4  | ・皇帝以外の強力な実力者が乱立していなかった。            | ・ヨーロッパでは、教皇との争いで国力を落とした国もあったから。                                                                                                         |
| 5  | ・広大な領土の支配制度が優れていた。                 | ・古代オリエントやモンゴルなど広大な領地を保持していた国では、駅伝制が発達したから。<br>・清王朝は、藩部を統治するために理藩院を置いたので、遠隔地の問題にも対処しやすかったから。                                             |
| 6  | ・商業が盛んで経済面で安定していた。                 | ・ビザンツ帝国を倒したことにより、世界最大の貿易都市であるコンスタンティノープルを手に入れたため、人々が資源・食物に困らなくなったから。(人々が資源や食物に困らなくなり、反乱が少なかった。)                                         |
| 7  | ・土地がよく、農耕に適し、食料が十分にあった。            | ・中国の湖広地方のように大規模な穀倉地帯があった国は国民が増え、戦力アップにつながっているから。                                                                                        |
| 8  | ・宗教が統一されていた。<br><br>・1つの宗教を強いた。    | ・一つの宗教を信仰することによって、宗教間の自国での争いがなく、内乱がないから。<br>・厳しい教えのイスラーム教徒は、他の宗教よりも一枚岩になれるから。<br>・秦の始皇帝の焚書・坑儒のように、思想を統一したから。                            |
| 9  | ・異民族を有効に支配した。                      | ・清の満漢併用制のように、他民族でも良いところを取り入れたから。                                                                                                        |
| 10 | ・領土の位置がよかった。                       | ・外敵の侵入を防げる場所にできた国や都は長く続いているから。<br>・アジア・アフリカ・ヨーロッパ地域の中心地にあったから。<br>・ユーラシア大陸の東西を結ぶ地域を領土とし、貿易の利益が大きかったから。<br>・気候がよく、食物不足に困らなく、住み心地がよかったから。 |

この一覧表で、仮説として説得力があるかどうか、まず個人で評価させ、支持するかどうかを考えさせた。そして、支持しない場合はその理由も記入させ、班ごとの検証の際に参考にさせた。その後、これらの仮説を各班に割り当て、教科書、資料集、教師の準備した参考文献をもとに検証させた。検証した結果について、班ごとに発表させ、考え方に誤りのあるもの、あいまいなもの等については、教師が適宜、訂正や補足説明を加えた。

生徒はおおむね、古代オリエントやローマ帝国、中国などで学んだ世界帝国の統治システムを根拠に挙げ、仮説を立てることができた。また、政治的要因、経済的要因、宗教的要因、地理的要因など複数の角度から考えることもできた。

しかし、イスラーム教に対する厳格なイメージや、宗教を統一することが繁栄をもたらすという考えが生徒の中には根強く、他宗教に対して寛容であったことを見誤っていた者が多かった。そこで、異教徒を弾圧するような政策は繁栄に結びつかないことを説明した。また、近代以降の植民地とドイツの東方植民の違いなど、普段の授業で見落としがちな歴史認識の誤りを指摘することができた。

最後に、オスマン帝国の繁栄の理由について論述させ、まとめとした。次に挙げるのは、ある生徒がまとめたものである。

宗教に対して寛容だったため、比較的自由に宗教を崇拝することができた。またスレイマン1世のような帝国の制度の整備に力を注ぐようなしっかりとした「立法者」と呼ばれるスルタンがいたため、政治的な統治が上手くできていたとも考えられる。また、官僚制が無能なスルタンを支えたため長く続いた。危機管理の面ではイエニチェリと呼ばれる常備歩兵軍団がいることで、近隣諸国の脅威となったため、あまり外国からの攻撃を受けなかったと考えられる。

ほとんどの生徒が帝国の繁栄の理由を正しく記述することができたが、記述内容には偏りがあり、重要事項を不足なく挙げているものはなかった。「自分が調べたところはよく分かったが、それ以外の部分の知識が欠けている」といった不安を感じた生徒もいたことから、何らかの対応が必要である。

## 実践 2

(1) 単元名 オランダの独立と繁栄

(2) 単元の目標

- ① 17世紀にオランダが繁栄した理由について、多面的・多角的に考察させる。
- ② オランダと日本の関係について理解させる。

(3) 単元の評価規準

| 関心・意欲・態度                         | 思考・判断                           | 資料活用の技能・表現                                      | 知識・理解                             |
|----------------------------------|---------------------------------|-------------------------------------------------|-----------------------------------|
| オランダの繁栄の理由について、意欲的に仮説を立てようとしている。 | オランダが繁栄した理由について、多面的・多角的に考察している。 | 適切な資料を活用して、オランダが繁栄した理由についての仮説を検証し、自分の考えを表現している。 | オランダの独立と繁栄について理解し、基本的な知識を身に付けている。 |

(4)単元の指導計画

- 1 時間目 17世紀にオランダが繁栄した理由について、各自仮説を立て、班ごとにまとめる。
- 2 時間目 仮説を評価し合い、班ごとに検証する。
- 3 時間目 検証結果を発表し合い、史実を確認した後、オランダが繁栄した要因をまとめる。

(5)授業展開

《1時間目》

| 段階 | 時間  | 学習内容・学習活動                                                                                                                                                                        | 指導上の留意点                                                                                                                                         | 評価計画<br>〔評価方法〕                                                                                                                     |
|----|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 10分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐野市の龍江院所蔵のエラスムス像を見て、リーフデ号の船尾についていた像が栃木県にある理由に気付く。</li> <li>・日光東照宮にあるオランダ灯籠を見て、オランダから贈られた灯籠が東照宮にある理由に気付く。</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>ワークシート1</b>の年表中で、関連のあるところに下線を引かせていく。</li> <li>・この時代の日本の歴史を思い出させるとともに、オランダとの関係の深さに気付かせる。</li> </ul>   |                                                                                                                                    |
| 展開 | 15分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オランダの独立と繁栄の過程について講義を聞き、<b>ワークシート1</b>に必要事項を記入する。</li> <li>・オランダが日本に来航したのは、オランダ建国期のことであったことに気付く。</li> </ul>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川の入ったヨーロッパの白地図と世界地図を見せて、オランダの位置や国土の大きさを確認させる。</li> </ul>                                               |                                                                                                                                    |
| 開  | 25分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・17世紀にオランダが繁栄した理由について、自分なりに仮説を立て、<b>ワークシート2</b>に記入する。</li> <li>・班ごとに話し合っ、班としての仮説を1つに絞り、<b>ワークシート3</b>に「仮説」と「仮説を立てた理由、根拠」をまとめる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ多くの仮説を立てさせる。その際、今までに学習したことを参考にさせる。ただし、教科書・資料集の該当箇所は見ないように指示する。</li> <li>・修学旅行と同じ班編成とする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項をもとに説得力のある仮説を立てている。</li> <li>【関心・意欲・態度】</li> <li>【思考・判断】</li> <li>〔ワークシート2〕</li> </ul> |



## ワークシート1

| オランダ                                                                                                                                                                                                                                   | 日 本                                                                               | その他                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| オランダ独立戦争（1568～1609）<br>〔原因〕・カトリックの強制→カルヴァン派の反感<br>・重税（ゴイセン）<br>〔経過〕ネーデルラント17州の反乱開始（1568）<br>フェリペ2世の懐柔策で南部10州脱落<br>北部7州はユトレヒト同盟結成（1579）<br>中心：（ 州）<br>独立宣言（1581）<br>正式名称「ネーデルラント連邦共和国」<br>スペインと休戦和約（1609）<br>東インド会社設立（1602）拠点：ジャワ島バタヴィア | 1549 ザビエル、カトリックを伝える<br>1575 長篠合戦<br>1587 秀吉、バテレン追放令<br>（省 略）<br>1600 オランダ船リーフデ号漂着 | 1571 スペイン、フィリピンにマニラ建設<br>（以下略） |

## ワークシート2

2年（ ）組 氏名（ ）

スペインから独立したオランダが、17世紀前半に繁栄した理由を考えて、自分なりの仮説を立ててみよう。

その際、今まで学習した各地域のいろいろな時代の様々な国を参考に考えてみよう。また、政治的要因、社会経済的要因、宗教的要因、文化的要因、地理的要因など様々な角度から考えてみよう。

|   | 仮 説            | 左記の仮説を立てた <u>具体的理由</u> または根拠<br>歴史上の前例など                        | 評価 |
|---|----------------|-----------------------------------------------------------------|----|
| 例 | 香辛料をアジアから運んだから | 中世のイタリア商人が東方貿易で香辛料を扱って豊かになり、16世紀にはポルトガルがインド航路を開拓し、香辛料で豊かになったから。 |    |
| 1 |                |                                                                 |    |
| 2 |                |                                                                 |    |
|   |                |                                                                 |    |

### ワークシート3

( ) 班 2年 ( ) 組 氏名 ( . . . . )  
 各人の考えた仮説をグループのものとして一つにまとめあげよう。

|                      |                                          |   |   |   |   |
|----------------------|------------------------------------------|---|---|---|---|
| 班の仮説                 | 左記の仮説を立てた <u>具体的</u> 理由または根拠<br>歴史上の前例など |   |   |   |   |
|                      |                                          |   |   |   |   |
| 評 価：信憑性があるか・説得力があるか等 | 5                                        | 4 | 3 | 2 | 1 |

### 〈2時間目〉

| 段階 | 時間  | 学習内容・学習活動                                                                                 | 指導上の留意点                                                                                 | 評価計画<br>〔評価方法〕                                      |
|----|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 展  | 20分 | ・ <b>ワークシート4</b> を見て、班ごとに、他の班の仮説に対する反論や指摘を考え、 <b>ワークシート5</b> に記入するとともに、黒板に書く。             | ・ 班ごとの仮説を記入した <b>ワークシート4</b> を配付する。                                                     | ・ 適切な反論や指摘をしている。<br>【思考・判断】<br>〔ワークシート5〕            |
| 開  | 25分 | ・ 自分の班の仮説が史実にあっているかどうかについて、板書された他班からの反論・指摘を踏まえつつ、資料集や参考文献などをもとに検証し、 <b>ワークシート5</b> に記入する。 | ・ 黒板に書かれた、自分の班の仮説に対する反論や指摘を意識して、検証作業を行うように指導する。<br>・ 班内で読む資料を分担するなど、効率よく検証作業を進めるよう指導する。 | ・ 適切な資料を活用し、正しく検証している。<br>【資料活用の技能・表現】<br>〔ワークシート5〕 |

#### ワークシート4

( ) 班 2年 ( ) 組 氏名 ( . . . . )

各班の仮説

|    | 仮説                                 | 左記の仮説を立てた <u>具体的理由</u> または根拠、歴史上の前例など                                         | 調べた結果（各班の発表を聞き、事実とされていることを記入しよう） |
|----|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 1班 | ・オランダだけが日本と貿易をした。また、宗教改革でゴイセンになった。 | ・当時、強大だったスペインと競争せずに貿易の富を独占できた。その資金をもとにして国力を強めた。カルヴァン派では結果としての営利・蓄財を肯定し、国が富んだ。 |                                  |
| 2班 |                                    | (以下略)                                                                         |                                  |

#### ワークシート5

( ) 班 2年4組 氏名 ( . . . . )

○自分の班以外の班の仮説をよく読んで、信憑性のないところはないか、しっかりとした根拠に基づいているか、反論する余地はないか、考えよう。

( ) 班に対して 指摘したい点・反論したい点

( ) 班に対して 指摘したい点・反論したい点

○自分の班の仮説が正しいかどうか調べよう。

各班ごとに反論を視野に入れつつ、自分の班の仮説を資料を見ながら正しいかどうか検証していこう。

( ) 班からの指摘・反論

( ) 班からの指摘・反論

仮説が正しい→○ 部分的に合っていた→△ 間違っていた→× ( )  
 詳細 (事実はどうであったか)

参考にした資料

補 足 (仮説とは関係なく、発見したこと)

### 〈3時間目〉

| 段階          | 時間  | 学習内容・学習活動                                                                                                                                         | 指導上の留意点                                                                                                                          | 評価計画<br>〔評価方法〕                                                                                                |
|-------------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 展<br>開      | 40分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班ごとに、自分の班の仮説が正しかったかどうか、また史実はどうであったかを発表する。</li> <li>・ 発表や教師の説明を聴き、<b>ワークシート4</b>に史実やポイントを記入する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各班の検証した結果を簡潔に発表させる。</li> <li>・ 発表内容に補足・訂正を加えていく。</li> <li>・ ポイントをしっかりと記入させる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正しい内容で、わかりやすく発表している。</li> </ul> <p>【資料活用の技能・表現】<br/>〔ワークシート5、発表〕</p> |
| ま<br>と<br>め | 10分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 17世紀にオランダが繁栄した理由について5行以上でまとめる。</li> </ul>                                                                |                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正しい知識が身に付いている。</li> </ul> <p>【知識・理解】<br/>〔まとめの記述内容〕</p>              |

#### (6)実践の概要

**実践2**では、**実践1**の反省から、以下の点で改善を加えた。

- ・ 教師が仮説を分類して、検証する仮説を班に割り当てることをやめ、自分の班の仮説を自分たちで検証させるようにした。それにより、班別学習での生徒の学習意欲を高めることを目指した。
- ・ より真剣に検証に取り組ませ、考察を深めさせるため、他の班から、仮説に対する反論や指摘を挙げさせた。
- ・ 班の話し合いを活発にするため、班編制を修学旅行の班とした。

検証結果の発表、教師の補足説明、論述によるまとめについては、**実践1**と同様に行った。以下に、いくつかの班の、仮説、他班からの指摘、検証結果を挙げる。表の見方は次の通りである。

- I 仮説
- II 仮説を立てた具体的理由または根拠、歴史上の前例など
- III 他班からの指摘・反論
- IV 調べた結果

[ ]内は自己評価：仮説が正しかった→○ 部分的に合っていた→△ 間違っていた→×

## 1 班

|                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| I ・オランダだけが日本と貿易をした。また、宗教改革でゴイセンになった。                                                                                      |
| II ・当時、強大だったスペインと競争せずに貿易の富を独占できた。その資金をもとにして国力を強めた。カルヴァン派では結果としての営利・蓄財を肯定し、国が富んだ。                                          |
| III オランダが日本と貿易をしたことで多くの富を得ることは可能だったのか。(4班)                                                                                |
| IV [○] オランダが日本を貿易相手に選んだ理由は豊かに産する貴金属にあった。17世紀には数ある商館の中でもトップクラスの収益を上げた。さらにオランダは平戸のオランダ商館を軍事的拠点としていた。オランダが日本と貿易するメリットは大きかった。 |

## 2 班

|                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| I ・毛織物工業が成長した。 ・商業革命 ・農場領主制 ・エルベ川                                                                                                                  |
| II ・南北ヨーロッパ商業の中継地として毛織物工業が成長し、経済が豊かになった。大航海時代の到来によりヨーロッパの遠隔地貿易の中心が地中海から大西洋に臨む国々に移動した。<br>・輸出用穀物を生産する直営地経営を行っていた。<br>・国内にエルベ川が流れていたため、土壌生産が活発だったから。 |
| III ・エルベ川はオランダを通過していない。(3・4・7・9班)<br>・北海に面するオランダは南北ヨーロッパ商業の中継地にはなりえないのではないかと。(3班)<br>・穀物の輸出は東欧から西欧へである。また直営地経営は東欧である。(3班)                          |
| IV [△] 商業革命は正しかったが、農場領主制は東欧で行われていたため間違い。オランダを通過しているのは、エルベ川ではなく、ライン川。                                                                               |

## 3 班

|                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| I ・北海に面している ・近隣国との関係 ・オランダの宗教への体質 ・州制                                                                                                                                                                  |
| II ・海に面しているため、アジアへの進出が可能になり、航海の面で有利であったから。<br>・北海を挟んだイギリスからの影響など、文化の享受の面で地理的に恵まれていた。<br>・カルヴァン派(ゴイセン)は腐敗していたカトリックの影響下になかった。教皇の干渉がなかったため、自由な体制がとれたから。<br>・17州に分立していたため、一元的支配に比べて各州の状況に即した柔軟な政治体制をとれたから。 |
| III ・教皇の干渉はあったのでは。(5班)<br>・17州に分立していたため柔軟な政治体制をとれたというのは本当だろうか。(2班)                                                                                                                                     |
| IV [△] アジアに進出した事実があり、それが可能である航海術を有することは大航海時代において有利であることこの上ない。文化的にはオランダの方がイギリスより進んでいた面も多く、どちらかというとならぬ。しかし、イギリスの軍事的援助はあった。17州は独自の政治体制をとったため、柔軟というよりはまとまりのない政治が行われた。                                      |

## 4 班

|                                                                                                                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| I ・貿易が発達していた ・国内の商業の発達                                                                                                                                             |
| II ・季節風貿易で絹や香辛料を手に入れ、優れた航海技術により、安定した貿易ができた。<br>・カルヴァン派の信仰により、貯蓄や倹約が奨励されたため、商工業が発達したから。                                                                             |
| III なし                                                                                                                                                             |
| IV [△] バルト海での中継貿易で発展した。一方、東インド会社が目指していた貿易は戦争と紙一重であった。必ずしも安定した貿易とはいえない。カルヴァン派が唯一の公認された教会ではあったが、思想・言論・宗教については他国に比べ、自由であった。アムステルダムは金融と貿易の中心で、取引所や振替銀行、保険業務なども整備されていた。 |

生徒はおおむね既習事項をもとに根拠を挙げ、仮説を立てることができた。また、政治、経済、宗教、立地など、多角的に考えることもできた。

仮説の内容をみると、**実践 1**「オスマン帝国の成立と発展」と同じように、宗教の統一を繁栄の要因として仮説に挙げ、特にカルヴァン派の教義に注目した班が目立った。しかし、宗教の統一を「異教徒を排斥するもの」ととらえているとしたら、適切な根拠とはいえない。そこで、言論・出版の自由が許されていたオランダには、多くのユダヤ教徒が亡命してきていた事実を指摘した。

ほとんどの生徒は、鎖国を日本側の政策としてのみ理解していたが、検証を進める中で、オランダが戦略的にアジア貿易を重視していたこと、中でも日本を重視していたことを知った。このように、他国から日本を見るという視点に気づき、歴史に対する見方を広げることができた。

また、4班から1班への指摘のような、「対日貿易の利益は、オランダに繁栄をもたらすほど大きかったのか」という疑問がいくつかの班からあがった。そこで、すでに学んだ「当時の日本が世界有数の銀の産出国であった」という事項を今回の学習と関連付けて、世界史における日本の位置付けについて確認させた。

さらに、3班のように州制に着目した班もあった。今日ではアメリカやドイツなどが州制を取り、地方の独自性を重視しながら国家として繁栄している。しかし、絶対主義時代において他国が強い君主権のもとに統合されていく中、7つの州の利害の調整もままならない状況では繁栄を維持することは難しい。州制は、視点としてはよいが、時代状況を考えると不適切である点を説明した。

授業の最後に、オランダの繁栄の理由について論述させ、まとめとした。次に挙げるのは生徒がまとめたものである。

商業での利益が国の繁栄に非常に貢献したと思う。まずアジアに香辛料を求めたことだが、ヨーロッパにおいて調味料としての価値の高い香辛料を手に入れることができれば莫大な利益に直結したと思う。またその貿易の際、列強国のスペイン・ポルトガルのアジアでの貿易の要所を略奪するなど利益を追求しつつ、相対的に自国の価値を上げるという抜け目のなさも大きいと思う。また、独立の反乱ではイギリスの支援を受け、スペインに勝利、その後スペインは再びオランダの略奪を目論むも、バルト海貿易で富を蓄え、国力を高め、最終的に休戦条約によって事実上の独立を獲得したように、オランダの成立の上では商業の成功が必ず絡んでいると思う。

商業の発達したネーデルラントにはカルヴァン派の新教徒が多く、オラニエ公ウィレムのもとに抵抗を続け、ネーデルラント連邦共和国の独立を宣言した。その際、独立を支援したイギリスを攻撃するためスペインは無敵艦隊を送ったが、敗れて制海権を失った。こうしてオランダは富を蓄え、東インド会社を設立して国力を強め、事実上独立を勝ち取り、他力ながらも繁栄することができた。

このように、ほとんどの生徒は正しく論述していた。**実践 1**と比べると、論述の内容が充実し、分量も増えた生徒が多くみられた。しかし、記述内容には偏りがみられたため、教師が重要事項を再度確認する必要がある。

### 3 アンケート結果

各実践の後に実施したアンケートの結果を以下に示す。回答は4（そう思う）、3（だいたいそう思う）、2（あまりそう思わない）、1（そう思わない）の4段階とし、4、3を肯定的回答、2、1を否定的回答とした。数値は、肯定的回答と否定的回答の割合を、**実践1**「オスマン帝国の成立と発展」の後の数値を矢印の左側に、**実践2**「オランダの独立と繁栄」の後の数値を右側に示した。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |       |         |       |         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------|-------|---------|
| 1 今回の授業は、皆さんが考えることを目的とした授業でした。講義形式の授業と比べてどうでしたか？                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |       |         |       |         |
| ①興味・関心をもてた                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 肯定的回答 | 97 → 90 | 否定的回答 | 2 → 10  |
| ②楽しかった                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 肯定的回答 | 82 → 83 | 否定的回答 | 18 → 17 |
| ③よく考えることができた                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 肯定的回答 | 93 → 97 | 否定的回答 | 7 → 3   |
| ④よく理解できた                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 肯定的回答 | 82 → 87 | 否定的回答 | 18 → 13 |
| ⑤またやってみたい                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 肯定的回答 | 72 → 60 | 否定的回答 | 25 → 40 |
| 2 感想・自由記述                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |       |         |       |         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ暗記するよりも頭に入った。自分で調べたりする方が知識が身に付くと思う。</li> <li>・自分で仮説を立てて、それを実証していくというのがよかった。</li> <li>・他と関連させることで理解が深まった。</li> <li>・一つの事柄について深く考えるのもたまにはよいと思った。</li> <li>・自分たちで考えると、実際のこととの違いや同じ点が多々あって、楽しく覚えられた。</li> <li>・今までに習ったことを復習でき、また、オスマン帝国についても分かったことがあったのでよかった。</li> <li>・普段自分が思いつかないような意見が出てきて楽しかった。</li> <li>・教科書を隅々まで読むことができてよかったと思う。</li> <li>・良い授業形式だと思ったけど、少し時間がかかると思う。時間が足りなくて厳しかった。</li> <li>・理解度に偏りができてしまった。一分野についてしか調べられなかったのが残念だった。</li> <li>・いろいろ考える作業が多くて、結構大変だった。</li> </ul> |       |         |       |         |

「③よく考えることができたか」と「④よく理解できたか」という質問については、肯定的回答が増えている。特に③に対する肯定的な回答は、**実践2**の後では4%増えて97%となり、ほとんどの生徒が「考える」活動にしっかり取り組むことができたと感じていた。また、自由記述に、「ただ暗記するよりも頭に入った。」「他と関連させることで理解が深まった。」等とあるように、自分で調べたり考えたりする活動によって、理解が深まったと感じている様子が見られる。

「②楽しかったか」という質問については、肯定的回答がどちらも約8割で変化がみられなかった。「①興味・関心をもてたか」については、肯定的回答がやや減少したものの、**実践2**の後でも9割と多くの生徒が「興味・関心をもてた」と回答している。

「⑤またやってみたいか」という質問については、否定的回答が25%から40%に増加した。講義形式に慣れている生徒は、ノートが残らないことや、授業で得られる知識に偏りが出てしまうことに不安を覚えたようだ。また、班で意見をまとめたり発表したりする学習形態は、生徒たちにとってかなり苦労があったようである。しかし、それでも「またやりたい」と感じた生徒が6割もいた、とらえられることができ、①から④の結果からみても、負荷の大きな学習ではあるが生徒の満足度も高かった、ということができる。

## 4 まとめ

### (1) 成果

生徒は、ある時代の情勢や国家をとりまく状況を踏まえて、国家の繁栄した理由を様々な角度から考えることができた。講義中心の授業では、一方的に知識を伝達することに偏り、生徒は受け身になりがちである。生徒に「考える」「調べる」「発表する」という活動をさせたことで、生徒の思考を促し活性化することができたと考えている。

また、課題を設定して考えさせる時間をもつことで、生徒は、新しい視点に気付いたり、歴史に対する見方・考え方を広げたりすることができた。例えば、**実践1**「オスマン帝国の成立と発展」では、生徒は、オスマン帝国が宗教的に寛容であったことを意外に感じていた。また、**実践2**「オランダの独立と繁栄」では、日本を中心とする見方だけでなく、他国から日本を見る視点をもつことができた。

さらに、アンケートで9割近くの生徒が「よく理解できた。」と回答したことや、自由記述に「ただ暗記するよりも頭に入った。自分で調べたりする方が知識が身に付くと思う。」「他と関連させることで理解が深まった。」等とあるように、生徒は、課題追究学習を行うことで、より知識が身に付き理解が深まったと感じていた。課題追究学習は、歴史的思考力を育成するだけでなく、知識・理解を確実にするためにも意味があることが分かった。

以上のことから、今回の実践により、歴史的事象を多面的・多角的に考察する力、その時代の特徴を他の時代や国と比較して把握する力の育成がある程度できたと考える。

### (2) 今後の課題

生徒は、班別学習という学習形態に不慣れなため、初めは班で調べたり意見をまとめたり発表したりすることが十分でできなかった。そこで**実践2**では、各班で一つの仮説をしっかりと立てる指導をしたり、班ごとの連帯感を高める工夫をするなど、いくつかの改善を試みた結果、ある程度、班別の学習活動を活発にすることができた。班別学習については、繰り返し行うことで、教師も生徒も習熟する必要があると感じた。また、班ごとに得点がかかるようなしくみなど、学習に対するモチベーションをより高めるような工夫について、さらに検討する必要がある。

また、アンケートで「またやりたい。」と回答した生徒が減少したことや、「大変だった。」「時間がかかって厳しい。」「知識が偏りそうで不安。」という意見がみられたことからわかるように、今回の課題追究学習に対して、達成感よりもむしろ負担を感じた生徒も少なくなかった。授業の進度や生徒の進路等からも、今回のように、ひとつのテーマに3時間かける学習を頻繁に行うことは難しい。しかし、生徒の思考力を高め、知識・理解を確実にするために、より短時間で、教師、生徒双方の負担感を軽減しつつ、課題追究学習を継続することが望ましい。そのために、今後、学習方法や内容などをよく吟味し、工夫していくことが必要である。